

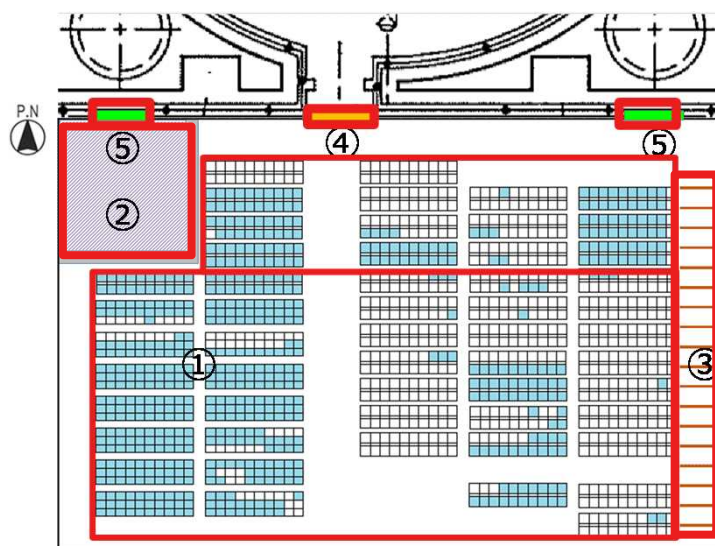
2号機使用済燃料プール内調査の実施について

東京電力ホールディングス株式会社（2020年6月15日）

特定原子力施設監視・評価検討会
(第81回)
参考1-3

<概要>

- 6月10日、11日に震災後初めてとなる2号機使用済燃料プール内調査を実施。
- 調査では、水中ROVを用いて、燃料や燃料ラック上部、プールゲート及び制御棒、キャスクピット等の状況を確認。
- 調査の結果、燃料ラックや燃料ハンドルの損傷、制御棒の落下及び制御棒ハンガーの変形等、燃料取り出しに支障となるような状況は確認されなかった。
- 今後、撮影した映像を詳細に確認し、調査結果を燃料取扱設備の設計等に反映することで、2024年度から2026年度に開始予定の2号機使用済燃料プールの燃料取り出し作業に向けて、着実に取り組んでいく。
- なお、今回の調査では、技術力向上を目的に、福島ロボットテストフィールド（南相馬市）にてモックアップ訓練を実施した上で当社社員が水中ROVの操作をしている。



SFP内調査対象箇所

<調査対象物>

- :① 燃料、燃料ラック
(□は燃料が入っていないラックを表す)
- ▨ :② キャスクピット
- ≡ :③ 制御棒、制御棒ハンガー
- :④ プールゲート
- :⑤ スキマサージタンク入口

2号機使用済燃料プール内の状況



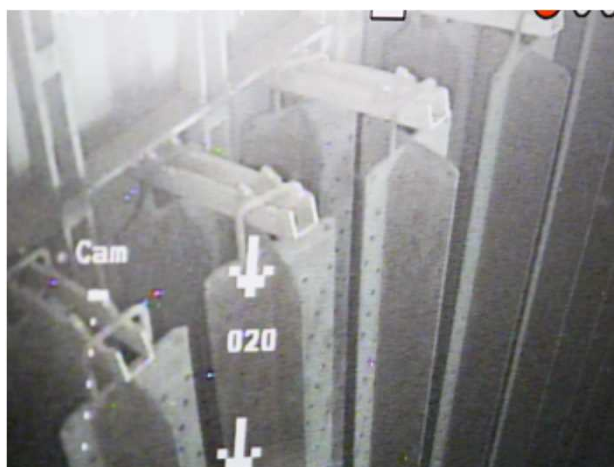
【水中ROVによる調査作業の様子】



【SFP内の燃料、燃料ラック上部の様子】



【SFP内のプールゲートの様子】



【SFP内の制御棒・制御棒ハンガーの様子】



【SFP内のキャスクピット底部の様子】



【SFP内の制御棒ラック、フィルタの様子】